

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 43人 |
| ② 算数 | 43人 |
| ③ 理科 | 43人 |

5 留意事項

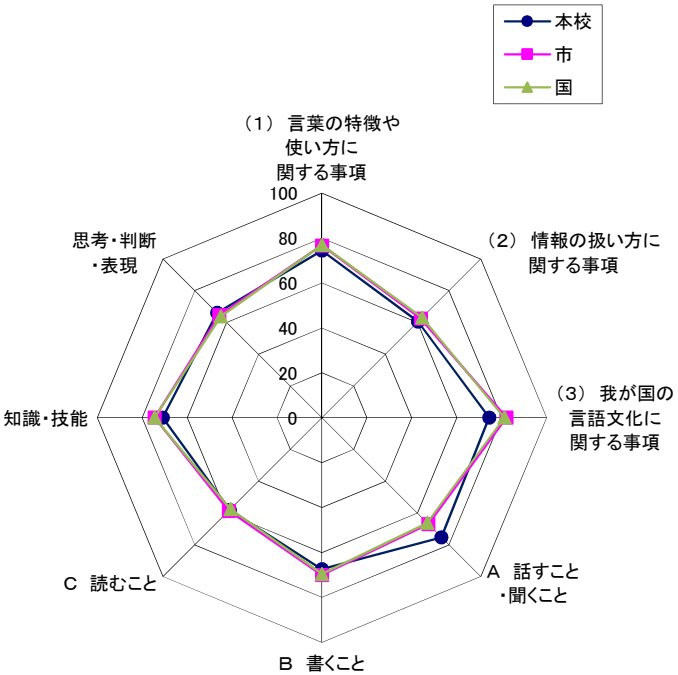
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	60.5	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.4	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	75.2	67.0	66.3
	B 書くこと	67.4	70.0	69.5
	C 読むこと	58.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	70.9	74.5	74.5
	思考・判断・表現	66.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

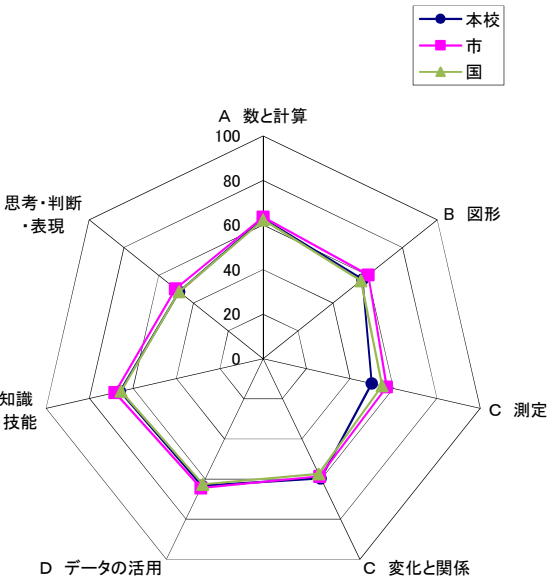
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は74.4%で、市の平均正答率より2.3ポイント下回っている。 ○●漢字を使って書き直す問題では、2問中1問は、市の正答率を3.8ポイント上回ったが、もう1問は、8.4ポイント下回っている。 ●漢字を書く力が十分に身に付いておらず、文の中で正しく使うことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・スキルアップタイムの活用や、AIドリルなどで繰り返し練習したり、確認テストなどを実施したりすることで定着と習熟を図る。 ・文章の中で既習の漢字を使って書くことを意識させるとともに、辞書などを活用し、場面にあった漢字の意味を確認させることで習得させていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率は60.5%で、市の平均正答率より1.9ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方についてを理解して使うことに課題が見られる。	・授業の中で、記号や印などを用いて、情報と情報の関係付けや語句と語句との関係を表していく学習を行うようにしていく。また、それらの活動を通し、考えを明確にしたり、思考をまとめたりとできることを実感させることで、国語だけでなく、他教科でも情報の整理ができるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は74.4%で、市の平均正答率より7.7ポイント下回っている。 ●時間の経過や世代による言葉の変化に気付いてはいるものの、選択肢の文言をしっかりと理解せずに解答しているように思われる。	・自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることや、それぞれの世代には特有の言葉遣いがあることに気づき、自分たちの言葉への関心を深められるようにしていく。そのために、様々な図書に触れたり、古典文学に触れたりする機会を設ける。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は75.2%で、市の平均正答率より8.2ポイント上回っている。 ○話し合いの場面において、話し手の目的や意図を適切に理解することができている。	・相手の話を聞き、自分の考えをまとめ伝える力がさらにつくように、相手が伝えたいことを落とさずに聞き取ったり、話す内容を整理し、分かりやすい構成で話したりできるように指導していく。また、話し合いの際には、自分の考えと比較して共通点や相違点を整理し、考えをまとめられるようにしていく。 ・話す機会や話し合い活動をする機会を意図的に設けていく。
B 書くこと	●平均正答率は67.4%で、市の平均正答率より2.6ポイント下回っている。 ●文章の構成の工夫を説明した設問での平均正答率は、58.1%で、市の平均正答率より7.8ポイント下回っている。 ●文章の構成や文章と図との関連を捉えることに課題が見られる。	・資料を用いたり、資料をもとに文章を書く課題を設定したりして書くことに取り組む活動を取り入れる。資料から読み取った内容を、目的に応じて構成する力を付けられるように指導していく。 ・相手や目的に応じて、構成を考えて書く活動を行う。 ・日記や作文、振り返りなど、文章を書く活動を国語だけでなく、学校生活全体で意図的に取り入れていく。
C 読むこと	●平均正答率は58.1%で、市の平均正答率より0.5ポイント下回っている。 ○資料とメモから要旨を把握することができている。 ●目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることに課題が見られる。	・文学的文章での叙述から心情を想像する活動だけでなく、説明的文章や身近なパンフレット等から筆者や情報発信者の意図を捉えたり、具体例や資料がどうして用いられたのかを考えたりする授業を展開していく。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	62.8	63.6	62.3
	B 図形	57.0	60.4	56.2
	C 測定	50.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	59.7	58.6	57.5
	D データの活用	63.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	65.9	68.3	65.5
	思考・判断・表現	48.2	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

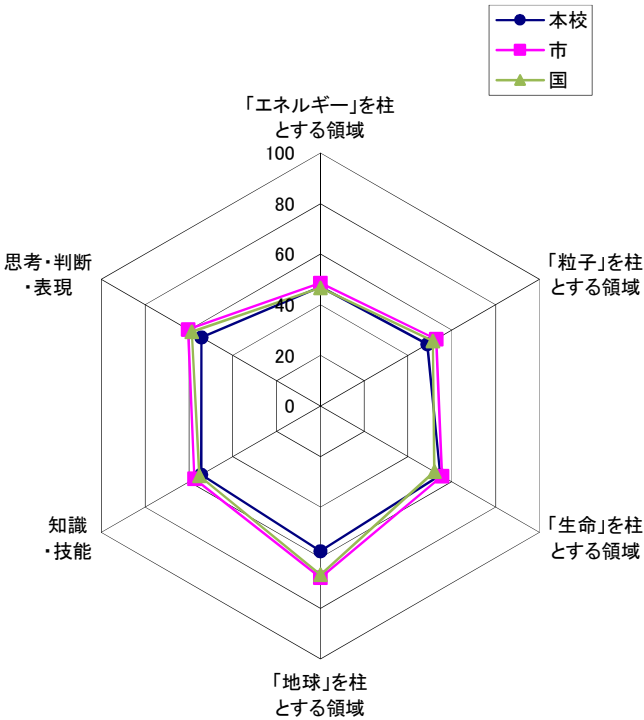
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は62.8%で、市の平均正答率より0.8ポイント下回っている。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題では、平均正答率が83.7%で、市の平均正答率より6.8ポイント上回っている。 ●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がみられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計算の技能は、スキルアップタイムや家庭学習等を活用して繰り返し練習問題に取り組んだ結果、定着しつつある。今後は、計算の仕組みに興味をもつことができるような課題を設定し、自分の考えを記述したり、説明し合ったりする活動を通して、考えを表現する力を育む。
B 図形	●平均正答率は57.0%で、市の平均正答率より3.4ポイント下回っている。 ○角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、平均正答率が83.7%で、市の平均正答率より4ポイント上回っている。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題では、平均正答率が51.2%で、市の平均正答率より9.7ポイント下回っている。	・指導の系統性を大切にし、既習事項の継続的な反復学習を取り入れながら、知識の定着を図る。 ・作図の学習においても、図形を構成する要素について、図形の意味や性質を基に、筋道を立てて説明する活動を取り入れる。
C 測定	●平均正答率は50%で、市の平均正答率より6.9ポイント下回っている。 ●はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題では、平均正答率が53.5%で、市の平均正答率より10.1ポイント下回っている。	・身近な日常生活に関係する課題を設定したり、「重さを量る」「長さを測る」などの体験する学習活動を多く取り入れたりする。 ・めもりを読む活動の際は、1めもりの大きさに着目させてから、正確にはかるように指導する。
C 変化と関係	○平均正答率は59.7%で、市の平均正答率より1.1ポイント上回っている。 ○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題では、平均正答率が46.5%で、市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはできているが、式や言葉を用いて求め方を説明することに課題が見られる。	・伴って変わる二つの数量の関係を図や表などに整理し、どのように変わっていくかに着目し、数値の関係を捉えたとともに、考えを友達に説明したり、共有したりするなど、学び合いの活動を取り入れる。
D データの活用	●平均正答率は63.3%で、市の平均正答率より1.1ポイント下回っている。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して、出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、平均正答率が25.6%で、市の平均正答率を10.4ポイント下回っている。	・日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向を考察できるような活動を意図的に取り入れる。 ・データの読み取りでは、社会など他教科と関連付けて読み取る力を高めていく。また、具体的な量をイメージさせることで、実感を伴った読み取りができるように支援する。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	47.1	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	48.8	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	54.7	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	57.4	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	54.3	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率が47.1%と、市の平均正答率より1.5ポイント下回っている。 ○電気の回路のつくり方についての理解は図られている。 ●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識の定着に課題がある。	・実験の手順を絵図等を用いて分かりやすく記述したり、実験結果を適切な項目の数値の表にまとめたりする活動を繰り返していく。 ・実験結果について、自分の考えを根拠を明確にして筋道立てて説明する機会を増やす。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率が48.8%と、市の平均正答率より4ポイント下回っている。 ○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討して答えることができている。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識の定着に課題がある。	・単元終了後にミニテストを実施するなどして、正確な知識の定着を図る。 ・実験結果について、自分の考えを根拠を明確にして筋道立てて説明する機会を増やす。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率が54.7%と、市の平均正答率より0.8ポイント下回っている。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。 ●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだすことに課題がある。	・収集した情報を整理して考えられるよう、話し合い活動を増やし、自分と友達の意見をワークシート等を用いながら比較検討する活動を行う。 ・今後も児童主体でねらいに沿った学習問題を考えさせることで、多様な考え方や方法をもって課題にせまることができるよう支援していく。
「地球」を柱とする領域	●平均正答率が57.4%と、市の平均正答率より10.5ポイント下回っている。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについての理解に課題がある。	・観察については、生活体験と結び付けながら、分析できるように活動を充実させていく。 ・実験の結果を記録する際、根拠を明確にして筋道を立てて説明できるように支援する。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「5年生生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は83.8%で、県の平均を15.4ポイント上回っている。また、「5年生生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は81.4%であり、県の平均を1.5ポイント上回っている。話し合いの場面では、自分の考えを工夫して伝える様子が見られる。	
●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は65.2%で、県の平均を15.2ポイント下回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は81.4%で、県の平均を6.1ポイント下回っている。今後は、伝え合いや学び合いの場を意図的に設定するとともに、自分の考えを広めたり深めたりする授業展開を工夫することで、新しい考えを知ることのよさを実感できるように指導していく。	
○PC・タブレットなどのICT機器を活用では、「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は95.4%であり、県の平均を6ポイント上回っている。PC・タブレットなどのICT機器を活用することについては、すべての質問の肯定的回答の割合が80%を超えていて、学習の効果や児童の興味・関心も高いことが分かる。	
●一方で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することでは、県の平均を下回っている質問もあり、「楽しみながら学習を進めることができる。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は81.4%で、県の平均を5.6ポイント、「友達と協力しながら学習を進めることができる。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は81.4%で、県の平均を8.3ポイントそれぞれ下回っている。また、PC・タブレットなどのICT機器を使って、情報を収集・整理したりプレゼンテーションしたりすることについての質問の肯定割合は県の平均を下回っていて、苦手意識をもつ児童が多いことが伺える。今後もPC、タブレットなどのICT機器を積極的に活用するとともに、その効果を実感することができるような授業展開を工夫していく。	
●「1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。」の質問では、普段(月曜日から金曜日)に1時間以上勉強していると回答した児童の割合は44.2%で、県の平均を13ポイント下回り、休日に1時間以上勉強していると回答した児童の割合は9.3%で、県の平均を9ポイント下回っている。また、「普段1日当たりどれくらい読書を読みますか。」の質問では、まったくしないと回答した児童が41.9%で、県の平均を13.8ポイント下回っている。「読書は好きですか。」の質問も、県の平均を下回っている。家庭学習の大切さや自主学習の仕方について、機会を捉えて指導していくとともに、家庭にも啓発をしていく。	
●「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は83.7%で、県の平均を4.7ポイント下回っていて、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の質問に肯定的回答をした児童の割合は95.1%であり、県の平均を3.8ポイント下回っている。また、「将来の夢や目標を持っていますか。」の質問も、県の平均を下回っている。学級活動や委員会活動などで、自分のよさを生かしたり互いを認め合ったりできる場を意図的に設定し、機会を逃さずに称賛するなどして、自己肯定感や有用感を高めるように支援していく。	

宇都宮市立清原南小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら学ぶ意欲をもち、粘り強く課題解決の取り組みを授業づくり	「教育のユニバーサルデザイン」の視点を取り入れ、クラス全員が授業に参加し、理解できるような指導の工夫を行い、全ての児童が学びやすい学習環境づくりを行っている。	「分からないことやよく知りたいたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていたか。」の質問の肯定割合は83.7%で、県の平均とほぼ同じであったが、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」の質問の肯定割合は83.7%で、県の平均を下回っている。
児童同士の協働的な学び合いと教師のコーディネート力を生かした授業展開	児童の興味関心意欲を高め、進んで追究してくなるような課題の工夫や、教科の見方・考え方を広げたり、思考をつないだりする授業の実践を行っている。	「授業や学校生活では、友達や周りのひとの考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」の質問の肯定割合は93%で、県の平均とほぼ同じであったが、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。」の質問の肯定割合は81.4%で、県の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。」の質問の肯定割合は、県の平均を下回っている。また、各教科の文章で書く問題についての取り組み方を問われた質問では、「解答をしなかったり、解答を途中であきらめたりしたものがあった」と答える割合は高い傾向が見られた。書くことに苦手意識をもつ児童がいることが分かる。	言語活動の充実と振り返りの工夫	授業終末時の振り返りでは、観点を明確にし、思考の過程を児童自身が論述する活動を意図的に取り入れることで、自分自身の成長を実感したり、学んだ知識・理解の定着を図るよう心したりできるようにする。また、書くことに慣れさせていくために、各教科の特質に応じた言語活動の充実を図るとともに、宮っ子ダイアリーを活用し、継続して日記を書く活動に取り組んでいく。
「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり疑問を見いだしたりしていますか。」の質問の肯定割合は、県の平均を下回っている。また、各教科の問題に対して、解答を途中であきらめてしまっている割合は、県の平均を上回っている。主体的に粘り強く学習に取り組もうとする意欲が低く、意欲的に学習に取り組むための動機付けが弱くなっている。	児童が意欲的に取り組むための授業づくり	児童が自ら学びたいと感じたり、解決の必要性を感じたりすることができる課題の設定を工夫するとともに、1人1台端末を効果的に活用したり、協働的な学びの場を意図的に設定したりするなど授業改善に取り組む。